

企画・編集：稲岡 努 東邦大学医療センター佐倉病院 放射線科

序説

本特集は、以前に企画された「地力が伸ばせるシリーズ」の続編である。多くの症例をとおして画像診断を学ぶというコンセプトを引き継ぎながら、今回はより多くの疾患・症例を盛り込み、さらに欲張りな企画内容となっている。

画像診断の上達には、多くの症例をみることも欠かせない。典型例、非典型例、診断に辿りつけなかった症例、思わぬ診断だった症例など、さまざまな画像をみているうちに、次第に「この所見なら、この診断で間違いない」、「似ているけれど、何かが違う」など感覚が生まれることがある。こうした感覚は、多くの画像をみるという経験によって培われるものかもしれない。一方で、知らないものを診断すること、知らない所見に気が付くということも難しく、1例1例を丁寧に読影し、そこから知識を蓄えることも必要である。こうした日々の積み重ねが、「地力」を付け、そして伸ばしていくことにつながると考える。

本号は、その「脊椎編」である。脊椎は日常診療で読影する機会の多い領域の1つであり、本特集で提示されている疾患や画像にも、普段遭遇するものも多いと思われる。しかし、common diseaseであっても、その画像所見にはさまざまなバリエーションがあり、臨床症状との関連や鑑別に迷うことも少なくない。また、みた感じではよくある所見にみえても、その背景に別の疾患が隠れていることもある。

本特集では、それぞれの領域のエキスパートの先生方に、多くの症例を提示しながら、診断に至るプロセスやおさえておくべきポイントを解説していただいた。さらに、各項目の主題とはやや異なるものの、ここでぜひ知っておきたい疾患や所見についても、クイズ形式などを取り入れながら提示していただいた。日々遭遇する疾患への理解を改めて深め、診断の引き出しをさらに増やすことのできる、示唆に富む特集となったのではないと思う。きわめてご多忙な時期での依頼にもかかわらず快くお引き受けいただき、多数の症例を用意してご執筆いただいた先生方に、この場を借りて心より感謝申し上げたい。

ご提示いただいた多くの症例を見比べ考えることで、知識と経験が結び付き、日々の画像診断を支える力になるものと思う。「自分ならどう診断するか、どう考えるか」を意識しながら、ぜひ1つひとつの症例をみていただきたい。本特集が、脊椎画像診断の「地力」をさらに伸ばす一助となれば幸いである。

稲岡 努